



年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりました。本年も宜しく願い申し上げます。

昨年は、5月に新型コロナの感染症法上の位置づけが5類に移行し、ウィズコロナからアフターコロナへの転換とともに、経済活動の正常化の動きが本格化しました。地政学リスクのさらなる高まりや物価の高騰などの懸念要因はありますが、国内経済は緩やかに回復傾向で推移するとの見方が多く示されています。

JCRの2023年の居住者長期格付を見ても、11年連続で格上げが格下げを上回ったほか、格上げ・見通しの上方変更も増加しました。格付の見通しがポジティブとなっている発行体が多いことなどから、新年も企業の業績や財務の健全性は改善基調を維持するものと見られます。

2023年の社債市場は、金利などの調達環境を背景に概ね堅調に推移しました。

特に ESG 債の発行が大きく伸びるなど、ESG に対する投資家の関心は高く、JCR では信用格付、サステナブル・ファイナンス評価の両面で、利用者のニーズに応えるべく取り組みを強化しております。

信用格付の分野では、引き続き、ESG 要素が信用格付に与える影響を説明するレポート「ESG クレジットアウトルック」の充実・普及に努めています。

サステナブル・ファイナンス評価の分野では、市場の発展・拡大にともない評価対象の多様化が進む中、「インパクト分析室」、「サステナビリティ検証室」の新設など社内態勢を整備し、市場の様々なニーズに応えております。また、我が国の脱炭素政策の資金を集めるための世界初の国債（「GX（グリーン・トランスフォーメーション）経済移行債」）の第三者評価業務へも参画しております。

さらに、JCR は、非居住者や海外資産を裏付けとするストラクチャード・ファイナンス商品などの格付にも積極的に取り組むとともに、アジア格付機関連合（ACRAA）の会長会社として、各国の格付機関とのネットワークも活用しながら、グローバル化を加速させています。

国内外の環境・情勢は、日々早い速度で変化を続けています。JCR は、こうした変化について、精緻な分析、明確・迅速・タイムリーな情報発信などに努めています。引き続き、金融市場を通じた社会経済活動へのしっかりしたコミットメントにより、「最も信頼・利用される」「グローバルに貢献する」総合的な格付・評価機関を目指してまいります。

本年も引き続き、JCR を宜しく願い申し上げます。

2024年1月1日

株式会社日本格付研究所 代表取締役社長

高木 祥吉